



令和8年8月31日

令和8年度第1回高等学校卒業程度認定試験「情報」の
「問題文」及び「解答・配点表」の訂正について

令和8年8月7日（金）（2日目）に実施した令和8年度第1回高等学校卒業程度認定試験「情報」について、下記のとおり問題文の誤り及び正答が2つある問題があることが判明しましたので、お知らせいたします。

受験者の皆様及び関係者の皆様には御迷惑をおかけしまして、誠に申し訳ありませんでした。

記

○事案の概要及びその対応

科目	大問	問	ページ	内容	措置
情報	4	4	13	図4に関し、一つのプログラムにおいて、条件判定の表記が不適切であり、等価比較の表記に「==」と「=」が混在していました。 （誤） (14) もし D =1 ならば： （正） (14) もし D ==1 ならば：	解答番号 17 について正答なしとし、全ての受験者を正答としたうえで、加点します。 （配点5点）

科目	大問	問	ページ	内容	措置
情報	5	1	16	解答番号 1 8 の選択肢①について、1973 年度と 2022 年度における石油の割合の推移を示しているにもかかわらず、「39.3%減少」と表記しており、割合の減少率を示す表現となっていました。 （誤） ①1973 年度から 2022 年度にかけて、石油の割合は 39.3%<u>減少</u>している。 （正） ①1973 年度から 2022 年度にかけて、石油の割合は 39.3 <u>パーセントポイント</u>減少している。	解答番号 1 8 について、当初、選択肢③を正答としていましたが、選択肢①を解答した受験者についても正答としたうえで、加点します。 （配点 5 点）

<担当> 総合教育政策局生涯学習推進課
 課長補佐 江幡（内線 3721）
 認定試験第一係 松田（内線 3267）
 電話：03-5253-4111（代表）
 03-6734-3267（直通）

令和8年度 情報 (50分)
(抜 粋)

注 意 事 項

- 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけない。
- この問題冊子は20ページである。
試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- 試験開始の合図前に、監督者の指示に従って、解答用紙の該当欄に以下の内容をそれぞれ正しく記入し、マークすること。
 - ・①氏名欄
氏名を記入すること。
 - ・②受験番号、③生年月日、④受験地欄
受験番号、生年月日を記入し、さらにマーク欄に受験番号(数字)、生年月日(年号・数字)、受験地をマークすること。
- 受験番号、生年月日、受験地が正しくマークされていない場合は、採点できないことがある。
- 解答は、解答用紙の解答欄にマークすること。例えば、

と表示のある解答番号に対して②と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の②にマークすること。

(例)

解答 番号	解 答 欄			
10	①	②	③	④

- 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
- 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってよい。

```

(01) ohajiki = 10, teban = 1
(02)  の間：
(03) | 表示する（"取る数を入力してください"）
(04) | toru = 【外部からの入力】
(05) | もし  ならば：
(06) | | 表示する（"1～3個を入力してください"）
(07) | そうでなければ：
(08) | | もし toru > ohajiki ならば：
(09) | | | 
(10) | | ohajiki = ohajiki - toru
(11) | | もし ohajiki == 0 ならば：
(12) | | | 表示する（"参加者", teban, "の勝ち！"）
(13) | | そうでなければ：
(14) | | | もし  = 1 ならば：
(15) | | | |  = 2
(16) | | | そうでなければ：
(17) | | | |  = 1
(18) 表示する（"ゲーム終了"）

```

図4 対戦することができるように改良したプログラム

問4 空欄 に入るものとして最も適切なものを、次の①～③のうちから一つ選べ。

解答番号は 。

- ① 1
- ② teban
- ③ ohajiki

5 次の文章を読み、問1～問4に答えよ。

Zさんは、日本ではどのような発電方法が多く利用されているのか、また、発電電力量に占める各発電方法の割合がどのように変化してきたのかを調べることにした。その結果、発電のエネルギー源で分けると、石炭、石油、天然ガス(LNG)のような化石燃料を利用して発電するものや、原子力発電のほか、水力、太陽光、風力、地熱、バイオマスなどの自然界で繰り返し得られるエネルギーを利用した再生可能エネルギーによる発電があることが分かった。

そこで、1973年度、2010年度、2022年度の3つの年度について、エネルギー源ごとの発電電力量の割合を示す図1を作成した。

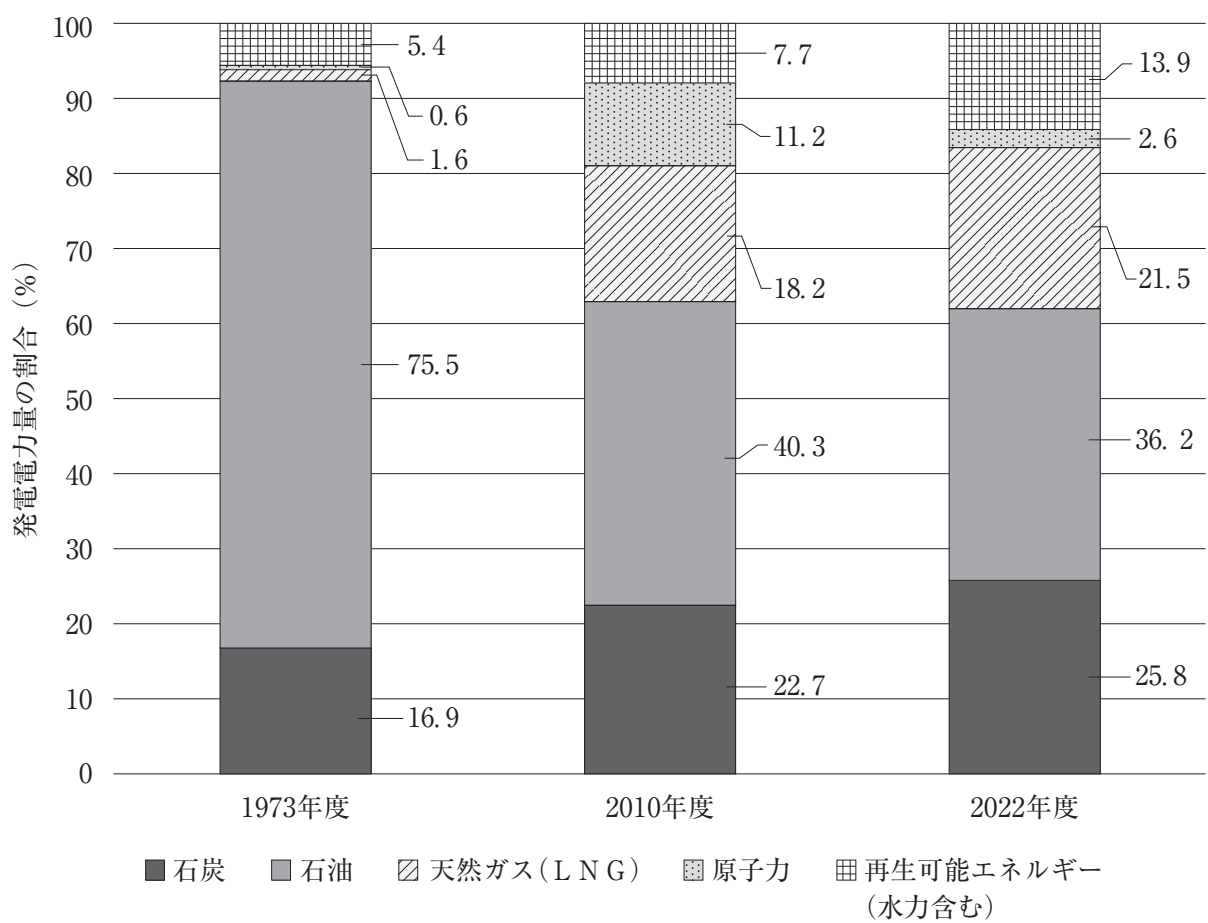


図1 日本の一次エネルギー供給構成の推移
(資源エネルギー庁「総合エネルギー統計」の2022年度速報値により作成)

問 1 図 1 から読み取れることとして適切でないものを、次の①～③のうちから一つ選べ。

解答番号は 18。

- ① 1973 年度から 2022 年度にかけて、石油の割合は 39.3%減少している
- ② 2010 年度と比べて、2022 年度は原子力の割合が約 4 分の 1 になっている
- ③ 再生可能エネルギーの割合は、1973 年度から 2022 年度にかけて、2 倍以上に増加している
- ④ 化石燃料（石炭、石油、天然ガスの合計）の 2022 年度の割合は、2010 年度より低い
1973 年度よりは高い

次に、Zさんは、日本における電気料金がどのように推移しているかを調べることにした。エネルギー源として石油が多く利用されていることに気づき石油に関連する資料を探した。その中で、石油は原油からできていることから、原油の価格が関係するのではないかと考えた。

そこで、2014 年度から 2022 年度までの、日本における電気料金について、電力平均単価（家庭用）、電力平均単価（産業用）、原油 C I F 価格の 3 種類の価格の関係を見るために、相関係数を計算して、以下の表 1 のようにまとめた。

(注) C I F 価格（運賃保険料込み価格）は、輸入国の国境で受け渡しされる物品の価格である。その地点で負うべき全ての保険料、運送料を含んでいる。

表 1 電力平均単価(家庭用)、電力平均単価(産業用)、原油 C I F 価格の相関係数

	電力平均単価(家庭用)	電力平均単価(産業用)	原油 C I F 価格
電力平均単価(家庭用)	1.00	－	－
電力平均単価(産業用)	0.97	1.00	－
原油 C I F 価格	0.58	0.65	1.00

(資源エネルギー庁 Web サイトなどにより作成)

相関

2 種類のデータ間において、一方が変化すると、もう一方も変化する関係性のこと。この関係の強さを表す値が相関係数であり、－1 から＋1 の範囲の数値で表される。相関係数の値は次のような性質がある。

- ・ 正の値：一方が増えると、もう一方も増える。(例：気温が上がるとアイスの売上が増える)
- ・ 負の値：一方が増えると、もう一方は減る。(例：気温が上がると暖房の使用が減る)

解答・配点表

科目名：情報

令和8年度 第1回

解答番号		選択肢	解答	配点
1	1	0～3	3	4
	2	0～3	1	4
	3	0～3	0	4
	4	0～3	0	4
	5	0～3	1	4
2	6	0～3	0	5
	7	0～3	0	5
	8	0～3	2	5
	9	0～3	3	5
3	10	0～3	2	5
	11	0～3	3	5
	12	0～3	1	5
	13	0～3	2	5
4	14	0～3	1	5
	15	0～3	2	5
	16	0～3	1	5
	17	0～3	正答なし	5
5	18	0～3	0又は3	0又は3の選択者に5点
	19	0～3	1	5
	20	0～3	3	5
	21	0～3	0	5